

発行代表者：鎌田 龍児

編集代表者：松坂 定徳

印刷：奥野印刷

2014.12

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-3-1-900 大阪駅前第 1 ビル 9F 岩手県大阪事務所内

【TEL&FAX】 06-6344-5969 【ホームページ】 <http://www.iwate-kansai.com/>

## さわやかな初秋の風に薫る菊花・りんどう（延暦寺） 第 50 回関西宮沢賢治忌法要（賢治 82 回忌）

### ■ 第 50 回関西宮沢賢治忌法要

平成 26 年 9 月 21 日 延暦寺国宝根本中堂前にある賢治歌碑の前で、導師・出仕 5 名の延暦寺高僧により賢治忌法要がしめやかに行われました。幸いなことに台風 17 号の影響はなく、さわやかな初秋の 1 日となりました。今年は 65 名（本会員は 14 名）の賢治愛好者が参列し延暦寺様と賢治ファンが一体となった法要となりました。今年も花巻の宮沢家より香り高い菊の花が届き、本会が取り寄せたりんどうの花と共に祭壇を飾り、秋空に映えておりました。

今年から延暦寺様にお願いして、法要開始時間を 15 分早め 11 時 15 分としました。歌碑建立以来、法要開始時間は 11 時 30 分となっていましたが、賢治さんが 11 時 30 分に人事不省に陥り午後 1 時 30 分に亡くなっています。従来の法要開始時間には理由（わけ）があったのです。ありがたいことに以前より参列者が多くなり、時間的に午後の日程が窮屈になっておりました。歌碑建立の発願者で、本会

初代会長の葉上照澄上人が法要時間を定めたことと思われますが、法要が盛大になったためであり、葉上上人もきっとお許しのことだと思います。

今年は花巻市からの参列はありませんでしたが、賢治さんの弟・清六様のひ孫である、同志社大学に在学中の宮沢香帆さんがお友達とともに参列してください、宮沢家ご代表で献花・ご焼香されました。賢治さん、清六様はさぞお喜びになったことと思います。また今回は本会第三代小野 誠会長（享年 63 歳）の七回忌に当たり、有縁物故者としてご供養をお願いしました。ご遺族の小野 真貴子様をはじめ、同級生の岩手大学獣医学科昭和 44 年卒業のみなさん 21 名が参列してくださいました。来られなかった方からも盛花が送られており一段と祭壇が華やかでした。小野前会長もまた大変喜んだことでしょう。

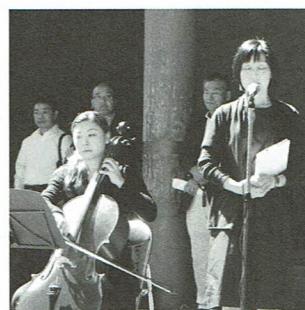


また9月で東日本大震災から3年半が経過しました。震災を忘れないように、今年も延暦寺様に震災犠牲者のご供養をお願いし、友人、知人をたくさん亡くされた鈴木 綾子さん（大船渡出身）がご遺族代表で献花・焼香なさいました。

関西岩手県人会は藤井 勝副会長、京都岩手県人会は菊地 武利様、岩手県大阪事務所からは安達 健次主査など各団体のご代表が続き、最後に記念講演会講師の浜垣 誠司氏が献花・焼香され、その後参列者全員が続きました。

全員の焼香が終わった後、北水会近畿支部会員および獣医学科昭和44年卒業生の面々による寮歌斎唱があり、星野祐美子さんの詩の朗読が続きました。今年もある有名な「雨ニモマケズ」で、三宅 香織さんの静かなチェロの伴奏の下に、原稿も見ずに静かに歌碑に語りかけました。今年も全員合唱は賢治さん作詞の「精神歌」で、同じく星野さんの指揮と三宅さんの伴奏で賢治さん82回忌（没後81周年）に彩りを添えました。

最後は導師の横山 照泰師のご法話（別掲）があり千日回峰行の起源となった「常不輕菩薩」のように賢治さんは「法華經の行者」です、と述べられました。今年は幹事の菊地 茂昭氏が法要司会を担当し、参列者が65名と例年より多かったにも関わらず12時を少し回った時刻で法要を終うできました。



ENRYAKUJI KAIKAN

### ■ 宮沢賢治忌記念講演会

浜垣 誠司氏

（精神科医、第18回宮沢賢治賞奨励賞受賞（2008））

講演司会は鈴木 綾子幹事で、講師のお許しを得て少しの時間初参加者の紹介をした後、浜垣先生のプロフィールを紹介しました。先生は精神科医院院長のお忙しい中、震災被災地支援の「イーハトーブ・プロジェクトin京都」を主宰し、収益を義援金として送る活動の他、「関西における賢治の足跡」を訪ね歩き研究成果を発表しております。浜垣誠司先生の講演は『統合し制御する精神と解離し浸透する精神～宮沢賢治の心性の特徴について～』で、難しい内容を比較的平易に説明されました。

帰りには、希望者に菊花とリンドウの花をお持ち帰りいただきました。



(別掲)

## ■ 導師ご法話

横山 照泰 師(天台宗参務)

私のお師匠さん、葉上 照澄上人は宮沢 賢治の熱烈な信奉者で、戦後初めて千日回峰行をなさった方です。昭和 21 年、終戦の翌年、千日回峰行を祈願し、終えられるのが昭和 28 年です。回峰行は足かけ 7 年かけて、このお山・比叡山、京都市中を礼拝して巡ります。ただし、365 日毎日行うではありません。冬場の行はとてもじゃないが出来ないわけですよ。凍傷にかかり下手をすると足を切らなければならぬ、という過酷な条件の中では、「冬場は無理だ」と先人が経験的に定めたのは、最初の年から 3 年は 100 日ずつ、4・5 年は 200 日ずつです。700 日が終わると「堂入り」で 9 日間の行に入る。6 年目は歩く距離が延びて 100 日、最後の 7 年目は 200 日です。スタートする期日が 3 月 28 日で、その日はお不動さん(不動明王)の縁日なんです。その日を起点として 100 日あるいは年によっては 200 日、だから 200 日巡る時にはちょうど 9 月中頃になる。これを続けて足かけ 7 年かかるわけです。

700 日後の「堂入り」はこの比叡山の南に位置する「無動寺」、ここも回峰行の拠点で「明王堂」があり、この堂にこもって 9 日間の「断食、断水、不眠、不臥」という、食を断つ、水を断つ、寝ない・横たわらないの行をする。これは人間の限界といわれている。医学的見地からは水を飲んでいれば 1か月、半年も持つといわれている。私のお師匠さんが 9 日間の断食、断水をしてお堂から出てきた時、自力では歩行も無理で支えられて出てきた時は瞳孔が開いていたといわれている。それは記録として残っている。そういう過酷な修行があります。

妙法蓮華經 8巻、28 品(ほん)、普通の書物でいえば 28 章に分かれているが、その 20 番目に「常不輕菩薩(じょうふぎょうぼさつ)」がでてくる。この菩薩は「会う人ごとに合掌して礼拝した」と、ひたすら礼拝行に徹してゆかれた方です。これを「但行礼拝」というが、この常不輕菩薩の生き方、あり方を受けて始まったのが「比叡山の回峰行」と言われている。今から 1 千年ほど前にこの回峰行を実際に始めたのは相応和尚(そうおうかしょう)で、平成 28 年(再来年)が相応和尚の 1 千年の遠忌に当たる。この方は妙法蓮華經の常不輕菩薩品に書かれている通り、雨が降ろうが槍が降ろうが、この比叡山の総本堂、根本中堂にお花を供えに通された。これが比叡山回峰行の起源になっている。

宮沢 賢治さんは皆さんご存じのとおり「法華經の行者、法華經の信奉者」です。妙法蓮華經の 20 番目に出でくる「常不輕菩薩」のないように傾倒しておられた。先ほどの「雨ニモマケズ」の詩の朗読にも「デクノボウ」という言葉が出てくるが、デクノボウと呼ばれながらも困った人がいれば助けてあげる、まさにこれは常不輕菩薩ですよ。賢治さんはこの常不輕菩薩に成りきろうとされたわけです。

いろんな方の「文学作品」があるけれど、「人間と他の生き物を比較して、擬人化と称するが、賢治さんの作品を読み



込んでゆくと賢治さんは違う、「われわれ人間と他の存在する生き物は同格である」。虫や鳥など昆虫、動物がたくさん出てくるが単なる擬人化ではなく、全くもう人間に置き換えた形で作品を表現されている。

ここに、賢治さんの素晴らしいところがあると思う。

われわれの仏道修行では「自我を失くしなさい」、我(が)を失くせという。我を張るから意固地になる、自分を主張できるかもしれないが、かえって仇になってしまふ、という部分もある。われわれ天台宗の教えは「自他不二(じたふに)」という、「自分と他は一体だ、一つのものだ」という。「人のことは知ったことじゃない」というのが世間の捉え方だが、われわれは「自他不二」で他の者の痛みを知るために修行している。これがなかなか難しく簡単にはいきません。しかし「自他不二」の精神をもって生きなければ、この地球もしまいには住めなくなってしまう。賢治さんはそういうことを深く洞察されてたくさんの作品を残され、遺言となさったと思う。

大正 10 年、25 歳でお父さんと一緒にこの根本中堂に来られて詠まれた歌が、「ねがはくは 妙法如来正徳知大師のみ旨成らしめたまへ」で、終わりが「たまえ」で終わっている。伝教大師はこの山に登られて「あきらけく 後の仏の御代までも ひかり伝えよ法(のり)のともしび」「阿耨多羅三藐三菩提(あたのくたらさんみやくさんぼだい)の仏たち わがたつ杣(そま)に冥加あらせたまへ」と歌の中で「たまえ」と言っている。これは伝教大師の願いを現実の世界に実現しなければならない、という諸仏諸菩薩の加護を願ったものです。伝教大師の願いも賢治さんの願いも同じなんだ、ということを痛切に感じております。

今の時代、まさに「他を思う気持ち」が欠けていると思うのです。どうか伝教大師や賢治さんの思いをいつまでも忘れない、これを自分の使命と思って伝えていく役割を私どもは担っていると思う。今日も天気に恵まれ実りの秋を迎えております。献花の中にも実った穂がお供えされておりますが、これも賢治さんの思いを表しているのだと思う。ご縁をいただきて私もありがたく思っております。合掌。



# 「阿彌流為・母禮之碑」

## 建立20周年記念法要を実施

平成6年11月6日(土)に清水寺南苑に「阿彌流為・母禮之碑」を建立して20周年を迎えた今年の11月8日(土)は秋晴れの穏やかな天気に恵まれて、記念法要が営まれました。

午前9時、碑前にて奥州市の「伊藤流行山鹿踊り(小野寺一雄庭元)と京都市の「岩崎伝京都鬼剣舞(伊東睦子庭元)が記念写真撮影の後仁王門横の広場に移動して、関西の会員、岩手県奥州市の会員、福島県田村市の会員総勢150余名と、その他一般観光客多数が見守る中、刀根正先幹事の司会で鬼剣舞10名による豪快な演舞と鹿踊り8名による壯麗な演舞を奉納しました。

引き続き全員が碑前に移動し「鹿踊りと「鬼剣舞が各々に古式に則り碑前に参拝した後、和賀亮太郎事務局長による参列者のご紹介があり、笛師森美和子さんの東日本大震災で被災した方々を偲ぶ篠笛にしばし心を鎮め、午前11時より及川光夫副会長の司会で森清範貫主様と一山の僧侶が総出仕されて記念法要が営されました。その後、関西の会員、奥州市の会員、田村市の会員毎に記念写真の撮影を行いました。

12時より円通殿にて鎌田龍児副会長より、本日ご臨席頂いた大分市満壽寺住職佐々木道一老師様の紹介があり、老師は奥州市前沢区のご出身であり、森貫主様とは妙心寺にて修行を共にされ、現在「禅文化研究所理事長」の要職にあらざると紹介された後、森貫主様により故高橋敏男初代会長様、故安倍満穂第二代会長様、故大内一成元理事様、故岩淵節哉元理事様と奥州市の物故者計9名の方々の追善供養の法要が営まれ、その後森貫主様よりご法話を頂戴致しました。

「清水寺は創建以来1200年の間に10回焼けた。前の建物は寛永6年に焼失し、同10年に再建され既に380年間を経ており、現在は平成の大修理中である。当時の工事の様子を思うにつけ、寛永時代の4年間に9棟の建物を再建した際は、数百人の工事人夫の寝泊り、14メートルもある丸太200本余りの搬入と材料置場はどうしたのだろうかなどと思いを馳せる。20年前先人達の努力による『阿彌流為・母禮之碑』建立は1200年前の東北の歴史に光をあてた大事業であった。この想いを将来に伝えるには伝統(寺では伝燈という)の火を絶やさないことが大切である。絶やさないためには毎日新しい油を注ぎ続け永遠に続ける日々の努力こそが大事。ご油断無きよう、この軽妙なオチに、貫主のお話を神妙に拝聴していた160名余の大聴衆の間に思いがけず笑いが起きました。



松坂定徳会長より参加者へお礼の挨拶があり「20年前は雨降りの中で碑の除幕式を執り行いましたが、今日は天気にも恵まれ、このように多くの参列者にお越し頂き、感激の至りであります。特に奥州市の皆様には遠くから駆けつけて下さり、常に励まされての20年間であります。長い間には中断しそうな時期もありましたが、会員の皆様に励まされ、役員の皆様に支えられて今日を迎えることができました。心より感謝申し上げます」と手を合わせてのご挨拶でした。

午後1時より洗心洞にて清水寺様のご配慮による立食式の懇親会が始まりました。佐藤耕吉常任幹事の司会で、ご来賓者の紹介に続き、奥州市長小沢昌記氏、田村神社宮司遠藤昌弘氏、岩手日報社長東根千万億氏のご挨拶と、元岩手県副知事濱田明正氏による乾杯のご挨拶で、懇親会が和やかに始まりました。延暦八年の会の写真家金光勇氏より森貫主様の写真額が寄贈されるサプライズの中、中央テーブルの盛り沢山の料理もあつという間になくなり、柏山喬副会長の中締めの後で、奥州市の皆さん「ああ、アテルイ」と「我がまほろば」を齊唱すると、この瞬間に参加者全員がアテルイやモレ達と1200年の時と奥州と京都の空間を超えて心が通い合った思いで、午後2時過ぎに深い感動の内に懇親会を終了しました。

午前9時から午後2時過ぎまでの長丁場にお付き合い頂きました参加者の皆様には大変お疲れ様でした。お蔭様をもちまして諸事万端滞りなく進めることができ、お礼申し上げます。 (関西アテルイ・モレの会事務局:和賀)

## 大阪産(もん)物産展 2か所での募金活動

今秋二つの大阪産品の物産展が開催された。一つは関西経済連合会が後押しする水都大阪「中之島グリーンマーケット」で、10月10日(金)～10月13日(月・祝)に大阪市役所南側の「みおつくしプロムナード」において大阪近郊の農産物中心に店が並んだ、農についての学びの場、大阪の食を発信する催しである。もう一つは大阪府環境農林水産部が大阪産(もん)大集合と題して、11月1日(土)～2日(日)にNHK大阪放送局南側広場で開催された物産展である。

以前、岩手県復興局に出向で岩手沿岸部に足しげく通わっていた大阪府危機管理室の石田 瞽氏が、帰阪後も何かと本県を気遣ってくださり、今回の催しへの出店も石田氏が便宜を図ってくれた由。中之島グリーンマーケットには岩手県産(株)、五飯(おにぎり専門店)、わかめ販売店・梨忠(洋野町)が、大阪産(もん)大集合には岩手県産(株)と五飯の

2店が出店した。

今回、五饭店主の澤田 龍氏(いわて文化大使)のお誘いがあり関西岩手県人会として店頭に募金箱を置かせてもらった。中之島グリーンマーケットの10月11日(土)は平野良夫幹事が10月12日(日)は鎌田 龍児会長と深田が、大阪産(もん)大集合の11月2日(日)は深田が担当した。いずれの物産展も目的の一つに東北支援を謳っていたが東北としては岩手県のお店のみであった。

五飯のおにぎりはいずれも早くに完売し、特に大阪産(もん)大集合の11月2日(日)はお昼前に売り切れとなり、岩手純情米・ひとめぼれの宣伝には大いに貢献した。

募金は中之島グリーンマーケットでは¥2,505、大阪産(もん)大集合では¥5,451であった。震災への関心が薄れてゆく中、十数人が足を止めてくれた。わずかでも募金に応じてくれた人たちに心から感謝したい。  
(深田)

## 泉大津サンマ祭り～大船渡のサンマが地元商店街の活性化にも～

去る10月26日(日)、南海本線泉大津駅より海岸側に歩いてすぐの泉大津商店街にて、今年で3年目となる泉大津サンマ祭りが開催された。主催者および来賓の挨拶で喜びのあまり何度も強調されたが、3年目にしてようやく快晴に恵まれ大変すばらしい祭り日和となった。

サンマはもちろん岩手県大船渡市より直送の生きの良い生サンマで、今年は1,200尾が焼き上げられた。昨年までは無料であったが今年から一匹¥100となった。もちろんその売上収益は全額が義援金に回される。有料となって客足が鈍るかと思ったが、商店街青年部リーダーによるサンマ焼き開始宣言が出た直後の10時過ぎには60人ほどの行列ができた。地元の商店や婦人部の出店、それに岩手の物産を売る店も軒を並べた。

セレモニーは9時からすぐ近くの大津神社での復興祈願

祭にはじまり、9時半から道路脇に設けられた特設舞台で開催、地元の主催者や名士の挨拶の他、大船渡市商工会議所会頭で岩手の銘菓「かもめの卵」で有名な「さいとう製菓」の斎藤 俊明社長が檀上に立ち、被災地を支援してくれる催しに対し感謝の言葉を述べられた。岩手県大阪事務所の猪久保 健一所長および関西岩手県人会の鎌田 龍児会長も檀上に並んで紹介された。

泉大津サンマ祭りは、東日本大震災の被災地を元気づける目的で当初は1回きりで終わるはずであったらしい。真偽のほどは知らないが、立派なサンマ焼き台を一年で捨てるのは勿体ない、と継続することになったとか。セレモニーの中で小中学生のアトラクション演技もあり、昼を挟んで他にも様々な催しが計画され、泉大津商店街の活性化にも一役買っているようだ。

(編集部)



## 北東会ゴルフ戦績～岩手チーム：団体準優勝、柏山氏がエイジシュー卜の快挙達成

平成 26 年 10 月 8 日(水)、第 28 回北東会(北海道と東北 6 県のゴルフ会)コンペがよみうりカントリークラブに於いて、台風一過の絶好の天気のもと開催された。持ち回りの今年の幹事は秋田(尚、来年はわが岩手)。参加者総勢 79 名(岩手 8、北海道 21、秋田 14、山形 12、宮城 10、福島 10、青森 4)。

成績：団体戦はチームの上位 5 名のネットスコア(ダブルペリア方式)の合計で競われ、優勝秋田、2 位岩手、3 位北海道、4 位福島、5 位宮城、6 位山形の順(尚、青森は参加者不足で選外)であったが、優勝した秋田は上位 5 名のグロス合計 410(@82) ネット合計 362.0(@72.4) と、2 位岩手：グロス合計 469 (@93.8) ネット合計 370.6 (@74.12)、3 位北海道：グロス合計 447(@89.4) ネット合計 371.4(@74.28)、4 位福島：グロス合計 430 (@86) ネット合計 373.6(@74.72)、5 位宮城：グロス合計 450(@90) ネット合計 374.4(@74.88) に対し、実力

のグロスで圧倒的に差をつけて勝った。わが岩手はグロスでは 5 位ながらダブルペリア方式のハンディに恵まれた結果となった。

個人戦ではわがチームでは 15 位以内では、3 位に松本氏、5 位に濱本氏、13 位に柏山氏が入った。

特筆すべき快挙は、わが岩手の柏山氏がエイジシュー卜(1 ラウンド 72 ホールを年齢以下のスコアで回ること)を達成したことである(アウトコース 43+インコース 39 合計 82 ← 年齢 83 歳)。懇親会場での発表で、満場拍手喝采で大兄を祝福しました。

来年はわが県が幹事である。多数の参加で場を盛り上げて頂くことを切に期待しております。

岩手チームのメンバー(五十音順・敬称略)：柏山 喬、熊谷 克己、高木 浩、外浦 記代美、長山 幸悦、濱本 昌範、藤井 勝、松本 泰州  
(藤井 記)

## 黒沢尻北 3 年連続 5 度目の花園へ

第 94 回の全国高校ラグビー(10 月 12 日決勝)は、身上の展開ラグビーを結実した黒沢尻北が宮古を 40-17(前半 5-17) と風上の後半で逆転し、3 年連続 5 度目の花園出場を決めた。

昨年は 2 回戦でシードの報徳に惨敗(0-55)した悔しさを晴らし、「ベスト 8」がチーム目標(大澤主将)。12 月 27 日からの全国大会が待たれる。

同じく年末の風物詩でもある高校駅伝は、男子が一関学院(20 年連続 28 度目)、女子は盛岡誠桜(8 年連続 8 度目)で、都大路での活躍(12 月 21 日)が期待される。

なお、秋期東北高校野球は、県勢 1 位の花巻東も 8 強止まりで、2 位・3 位の一関学院・宮古は夫々初戦敗退となり、県勢が選抜の東北枠 2 校に選ばれるのは難しい状況となった。

(事務局)

## 事務局掲示板

今号は宮沢賢治忌法要とアテルイ・モレの碑法要の話題が中心となった。年々参列者が多くなり関心が高まっているのは喜ばしい。年末の恒例行事である花園ラグビー出場校は、3 年連続の黒沢尻北高校です。応援よろしくお願ひします。

創立 60 周年記念祝賀会は別掲の通りです。祝賀会のみ出席予定の方は記念撮影に遅れないように、12 時 10 分くらいには受付を済ませるようお願いします。また、同封の出欠葉書を出席、欠席に関わらず必ずご返送ください。

## 関西岩手県人会創立 60 周年 総会・祝賀会のご案内

【日時】 平成 27 年(2015)2 月 11 日(水・祝)

【場所】 リーガロイヤルホテル

(大阪市北区中之島 5-3-68、TEL: 06-6448-1121)

■ 平成 27 年度総会次第 ■

1. 開会(11:30~)

2. 会長挨拶

3. 議長選出

4. 議事

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告および収支決算報告

第 2 号議案 役員改選

第 3 号議案 平成 27 年度事業計画および収支予算

5. 閉会(～12:10)

ただちにスタジオへ移動

記念写真撮影(12:10～12:40)

■ 創立 60 周年記念祝賀会次第 ■

黙祷～物故会員および東日本大震災犠牲者のご冥福を祈る～

1. 開会(13:00～)

2. 会長挨拶(関西岩手県人会々長 鎌田 龍児)

3. 来賓紹介

4. 来賓祝辞(岩手県知事 達増 拓也 様)

岩手日報社々長 東根 千万億 様)

5. 功労および永年在籍者表彰

特別功労表彰(3)、功労表彰(12)、永年在籍者表彰(42)

6. 乾杯

7. 祝電披露(会食・歓談)

8. 中締め(～15:30)